

1 内田全権の対列国交渉

784 昭和3年8月11日 在仏国安達大使宛（電報）

仏国側よりの通商条約改正、関税および国民
政府承認問題に關し日英仏三国間協調申入れ
について

本省 8月11日後4時50分発

第一三八号

八月八日仏国大使不在ノ為同大使館「ドブレ」書記官吉田次官ヲ來訪本国政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ支那問題ニ關シ左ノ趣旨ノ申出ヲナセリ

一、條約改正関税及国民政府承認ノ三問題ニ關シ共同ノ態度ヲ執ル為メ最モ緊密ノ利害ヲ有スル日英仏三国間ニ協調ヲ保ツコトヲ要スヘク

二、之カ為メ先ツ右三問題ニ關シ倫敦又ハ巴里ニ於テ専門家ノ非公式協議（conversations officielles entre les services techniques）ヲ行フコト有益ナルシ

省ニ就キ説明ヲ請ハシムルコトトスヘキ旨答へ置キタリ就テハ貴官ヨリモ仏国外務省ニ帝国政府ニ於テハ主義上本件ニ異議ナキ旨ヲ申入レラルト共ニ不取敢左ノ二点ニ付仏国政府ノ意向ヲ確メ電報アリタシ
一、専門家間ノ非公式協議トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ
二、協議ノ場所ハ北京辺却テ便利ナルヤニモ思考セラルル
處之ヲ不可トスル特別ノ理由アリヤ
英、米ニ転電アリタシ
在支公使ニ転電セリ

785 昭和3年8月12日 在仏国安達大使より
田中外務大臣宛（電報）
中国問題に關する日英仏三国非公式協議開催
について

本省 8月12日前着

第二二五号

貴電七八四文書
第一三八号ニ關シ（対支問題日英仏非公式協議ニ關ス
ル件）

「ドブレ」書記官ハ右申出ノ趣旨ヲ説明シ此ノ三国間ノ非公式協議ハ米國ニ対抗スル政治的陰謀ヲ企図セムトスルモノニアラス唯米國ト異ナリ仏國ハ支那ニ境ヲ接スル印度支那ヲ領有シ（印度支那カ支那ニ対シテ有スル三条約ハ期限満了ニ達セリ）其他支那ニ於テ切実複雜ナル利害ヲ有スルコト日英両國ト同様ナルヲ以テ最モ重要ナル利益ヲ有スル此ノ三国間ニ非公式ノ協議ヲ行ハントスルモノニ外ナラス仏國政府ハ同一ノ趣旨ヲ英國政府ニモ申入レタリト述ヘタルニ付條約改正、関税及新政府承認ノ問題ハ何レモ政治的考慮ヲ必然伴フモノト考ヘラルル處専門家間ノ内協議トハ如何ナルコトヲ意味スルヤニ質問セルニ同書記官ハ訓電ニ詳細ノ記載ナキヲ以テ明確ナル説明ヲ与ヘ難キ旨答ヘタリ仍テ九日同書記官ノ來省ヲ求メ次官ノ代理トシテ欧米局長面接シ帝国政府ハ趣旨トシテ仏國政府ノ申出ニ異議ナキヲ以テ在仏大使館ニ對シ本件ニ付仏国外務省ト打合ヲ遂クヘキ旨訓電ヲ發スルコトニ取計フヘク専門家間ノ協議トハ政府ヲ拘束スルコトナク事務的見地ヨリ行フ非公式ノ研究ト云フ程ノ意味ナルヘシト考ヘラルモ此ノ点ニ付テハ英國ノ本件ニ対スル意向ト共ニ在仏大使館ヲシテ直接仏国外務府ヲ拘束スルコトナク事務的見地ヨリ行フ非公式ノ研究ト云フ程ノ意味ナルヘシト考ヘラルモ此ノ点ニ付テハ英國ノ本件ニ対スル意向ト共ニ在仏大使館ヲシテ直接仏国外務

786

昭和3年8月13日

田中外務大臣より
在仏國安達大使
在米國沢田臨時代理大使宛(電報)不戦条約調印に際し我が中國政策を列国こと
に英米に説明すべく内田全権に付与の訓令について合第三一五号
本省 8月13日後6時30分発

巴里ニ於ケル不戦条約調印ノ会合ニハ主要国外務大臣モ参集ノコトナレハ支那問題モ或ハ話頭ニ上ルカ如キコトモアルヘキニ付内田全権ニ対シスル場合ニハ帝国政府ノ対支政策ノ趣旨ヲ列国間ニ徹底セシムルニ努力スル様訓令シ置キタルカ就中英米ニ就テハ是等両国ヲシテ我対支策ニ付誤解ナカラシメ以テ右政策実行上協調ノ態度ヲ持続セシムルヲ緊急ト認メ帰途特ニ右両国ニ立寄リノ上上記ノ趣旨ヲ体シテ両国政府要部ト懇談ヲ遂クル様併テ依頼シ置キタルニ就キ御含置相成度シ

(仮宛ノ分ニハ「英、伊、独、白、露ニ転電アリタシ」ト
付記ノコト)

787

昭和3年8月14日

田中外務大臣
ドウ・ビイー仏國大使会談

仏國大使国民政府の承認は列国同時に行うべき旨提案について

大臣会見録

八月十四日午後二時半田中大臣ハ仏國大使「ドウ・ビイー」氏ノ來省ヲ求メラレ支那問題ニ付午前中英國代理大使ニ話サレタルト同様(大臣会見録七十参照)ノ趣旨ニテ述ヘラレタルニ

仏國大使ハ満州ニ対スル腹蔵ナキ御意見ヲ伺ヒタルヲ悦ブ旨ヲ述フルト共ニ最後ノ列国協調云々ノ点ニ付

実ハ此ノ点ニ付テハ既ニ自分ヨリ吉田次官ニ話シタル所ヲ御聽取アリタルコトト信ス仏國トシテハ列国各機先ヲ制シテ南京政府ヲ承認シテ其好感ヲ買ヒテ自ラ利セントスルカ如キ態度ヲ棄テ以テ承認ハ各國之ヲ同時ニ行ハシコトヲ希望スルモノナリ此ノ点ニ関スル日本政府ノ御意向伺ヒ度ク尚米國ニ対シテモ仏國ヨリ同様ノ申入ヲナシ居ルモ事東洋ニ関スル問題ナルヲ以テ日本ヨリモ米國ノ意向ヲ問合セ下

サル様致シ度シト述ヘタルニ

大臣ハ承認ハ列国同時ニ行ヒ度シトノ仏國政府ノ希望ニハ全然賛成ナリ米國ニ対シテモ適當ノ機会アレハ我方ヨリモ其意向ヲ問合ハスコトトスヘキ旨ヲ約束セラレタリ

尚仏國大使ハ承認ヲ同時ニ行フコトニ諒解ヲ遂ケタル上矢

張仏國ノ希望シ居ル日英仏専門家ノ会合ヲ催シ以テ條約改訂ノ際等ニ於ケル各自ノ方針ニ付大体ノ諒解ヲ遂ケ置クコト必要ニシテ斯クシテ初メテ閣下ノ所謂協調ヲ保ツコト容易トナルヘシト信ス但シ右ハ全然非公式ノ会合ニシテ從テ其ノ決スル所ニヨリテ何等本國政府ヲ羈束スルコトナカラシムル意向ナリト述ヘ

大臣ヨリ右会合ニハ別ニ異存ナシ唯タ会合地ニ付貴方ニ於テハ依然巴里ヲ固執セラル次第ナリヤラ尋ネラレラレタルニ

仏國大使ハ自分ハ本国政府果シテ巴里ヲ固執スルヤ否ヤ確信シ難シ何レ本月下旬英国外務省極東部長巴里ニ来ル筈ニ

テ会合ニ関スル詳細ハ其節相談決定セラルコトト想像スル旨ヲ答ヘタリ

(昭和三年八月十七日 沢田電信課長口述)

943

942

788

昭和3年8月14日

田中外務大臣
ネヴィイル米國代理大使会談

国民政府承認問題および内田全権・米國國務

長官会談の申し入れについて

大臣会見録

八月十四日午後四時田中大臣ハ米國代理大使「ネヴィイル」氏ノ來省ヲ求メラレ支那問題ニ付午前中英國代理大使ニ対シテナサレタルト同様ノ趣旨(大臣会見録七十参照)ヲ述ヘラレタルニ

米代理大使ハ満州ニ対スル日本ノ地位ハヨク了解セル旨ヲ述フルト共ニ最後ニ閣下ノ言及セラレタル列国ノ協調ヲ保ツ問題ニ付テハ之カ為メ特ニ何等ノ行動ヲ執ルコトヲ考ヘ居ラサルヤ將又唯今ノ所形勢ヲ観望シテ列国何等行動ヲ執ラサルコトカ協調ヲ保ツ所以ト考ヘ居ラルヤラ尋ネタル大臣ハ之ニ対シ目下何等行動スルコトヲ考ヘ居ラス暫ク形勢ヲ注視シテ南方政權ノ帰趨定着スル所ヲ見届クルコト肝要ナリ尚此ノ点ニ関連シ思付クコトアリ今般仏國政府ヨリ

南京政府ノ承認ハ列国同時ニ之ヲ行フコトニ申合セ度キ旨
申入レアリ自分トシテモ列国ノ協調ヲ保ツ上ヨリモ右申合

スル能ハス唯々愈々承認スル場合ニハ列国同時ニ之ヲ行ヒ
府ノ意向如何アルヘキヤヲ尋ネラレタルニ米代理大使ハ今

直ニ承認セラル積リナリヤヲ反問シ

大臣ハ南京政府ノ現状ニ鑑ミ何時果シテ承認シ得ルヤ予測
度シト云フニアリト説明セラレ

米代理大使ハ御趣旨了解セルニ付之ヲ本国政府ニ伝フヘキ

ヲ約シタリ

尚大臣ハ不戦条約調印ノ為メ渡欧セラレタル内田伯ニ対シ

英仏米等ノ外務大臣ト会見ノ際支那ニ対スル我方立場ヲ十

分説明スル様依頼シ置キタルニ付米国々務卿ニモ同伯ト懇

談ヲ遂ケラル様伝ヘ置カレタキ旨ヲ希望セラレ米代理大

使之ヲ承諾セリ

(昭和三年八月十六日 沢田電信課長口述)

789 昭和3年8月15日 田中外務大臣より
在仏国安達大使宛 (電報)

日英仏三国非公式協議に佐分利臨時代理大使
を参会せしめる意向について
本省 8月15日後3時発

*第一四一號
七八五文書
貴電第一二二五號ニ関シ

「エキスパート」會議ノ件ニ付「ウェルズレー」渡仏ノ際
日本側ヨリハ佐分利ヲ参会セシムヘキニ付右ニ依リ仏國側
ト諸事御打合セ置キアリ度シ

790 昭和3年8月18日 田中外務大臣
アロイジ伊國大使会談

国民政府承認問題および汪中國公使の活動に

関する伊國大使の談話について

大臣会見録

八月十八日午前十一時田中大臣ハ伊太利大使ノ来省ヲ求メ
ラレ

先ツ日伊協定問題ニ關スル意見ヲ詳述セラレ (此ノ部分省
略)

次テ大臣ヨリ支那問題ニ付過日英仏米ノ各代表者ニ説明セ
ラレ

ラレタル (大臣会見録七十参照) ト同様我方立場ヲ話サレ
タルニ
伊国大使ハヨク之ヲ了解シタル旨ヲ述フルト共ニ米国ニ於
テハ右日本ノ立場ニ付如何申シ居ルヤヲ尋ネ
大臣ヨリ米国ニ対シテモ常ニ我方立場ヲ説明シ來リ居ル処
今日マテ之ニ付米国ヨリ何等批評カマシキ事ヲ聞キタルコ
トナシト答ヘラレ伊国大使ヨリ尚日本政府ハ其立場ヲ説明
スル為メ米国二人ヲ派セラル様新聞ニ伝ヘラル処右ハ
事実ナリヤヲ聞キタルカ

右ニ対シ大臣ハ唯今何等決定シ居ラス尤モ滿蒙ノ事情ニ精
通シ居ル人カ米国邊ニ行キテ事情ヲ語ルコトハ無益ニアラ
サルヘシ但シ斯ル人力行ケハトテ何等政府ノ命ヲ奉セシム
ルモノニアラスト答ヘラレタリ

尚伊国大使ヨリ自分ノ着任挨拶ノ為メ汪公使ヲ訪問シタル

際同公使ハ日支条約問題ニ付テハ支那側ニ於テ臨時弁法適
用ヲ差控ヘテ態度ヲ緩和シ居レルカ故ニ日本トノ間ニ折合
ヒ付クヘキヲ樂觀シ居ル旨ヲ語リタルカ同時ニ滿州問題ニ

就テハ同公使ハ頗ル悲觀シ居リ日本ハ滿州支那人ノ意思ヲ
蹂躪シテ事態ニ依リテハ流血ノ犠牲ヲ払ヒテモ滿州ヲ自由

意向について
日本英仏三国非公式協議開催に関する英國側の

791 昭和3年8月19日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛 (電報)

ロンドン 発

本省 8月19日前着

第一七二号

在仏大使宛貴電(七八五文書) 第一二三八号ニ閲シ

八月十六日極東部長ト談話ノ際本件非公式協議ノ件ニ触レタル處本会合ハ果シテ有益ナルヤ疑ハシキ旨並ニ「ウェルズレー」カ九月巴里ニ赴クハ休暇ノ為ナリト言ヒ本件ニ付テハ英仏間ノ諒解充分ナラサルヤノ感ヲ懷カシメタルヲ以テ翌十七日「ウェルズレー」ニ面会ノ節極メテ婉曲ニ本件ニ言及シテ同氏ノ意向ヲ確メタル處仏國政府ニ於テ強テ本件協議会ヲ開クコトヲ希望スルニ於テハ政府ヲ offend セサル為英國ヨリモ何人カ出席セシムルヲ適當ト認ム（且其ノ場合ニハ極東部長ヲ適任トスヘシト付言セリ）ルモ自分ノ巴里行ニ付テハ仏國大使來談ノ際九月休暇ニテ転地ノ際同地ニ立寄ル旨ヲ述ヘタルノミニテ本件会合ヲ催スコトニ付確タル言明ヲ与ヘタル次第ニ非ス又自分一己ニテ斯ル問題ニ付英國側ノ意向ヲ表示シ得ル限リニモ非スト言ヘリ尚同氏ハ本件会合ニハ一向氣乗リセサル趣ニテ（支那問題ノ協議ヲナストセハ其範囲ヲ條約改正関稅及国民政府承認ノ

ミニ局限スルコト不可能ニシテ其ノ他凡ユル問題ニ言及セサルヘカラス（）各國ノ協調ハ英國ノ希望スル処ナルモ的確ノ問題ヲ定メスシテ漫然会合スルコトハ益無カルヘク寧ロ現実ニ協議スヘキ具体的問題ノ起ルヲ待ツテ会合ヲ催スコト可ナルヘシ（）協議ヲ行フトセハ最モ適當ナル場所ハ北京ナリ等ノ意見ヲ述ヘタリ

右ノ次第二テ本件ニ付テハ当初「ウ」氏ト仏國大使ト小官ノ話ニ多少ノ行違アリテ未タ談合ノ熟シ居ラサルカ如ク從テ若シ貴電末段所載ノ如ク会合ノ場所ヲ北京ト為サンコトヲ希望セラルニ於テハ其ノ趣旨ニテ話ヲ纏ムルノ余地アレハク又此ノ際兔モ角巴里ニ於テ協議ヲ催スヲ適當ト認メラルニ於テハ其ノ御心組ニテ英仏両國ニ接衝セラルニ非サレハ本件ハ半途ニテ立消トナルノ憂無キニ非スト思考セラル尚同十七日仏國大使ハ「ウ」氏カ初メ巴里ニ行クヘシト言ヒタルモ後ニ変更シタルハ上官ノ意見ニ依ルモノト察セラレサルニモ非ス等極メテ内密ニ本官ニ話シタルコトモアリ何レニ誤解アリタリトスルモ我方ヨリ之ニ言及セラルハ頗ル機密ニ涉ルヘキニ付其ノ御含ニテ御取扱ヲ乞フ米、仏ヘ転電セリ

792 昭和3年8月26日 在英國佐分利臨時代理大臣より

田中外務大臣宛(電報)

英國側は内田全權渡英の際中國問題日英協調

の具體案提示を期待について

ロンドン

発

本省 8月26日前着

第一八〇号

本官発在仏大使宛電報

第二五六号

往電第二五五号ニ閲シ

内田全權へ左ノ通リ

吉田次官ノ談話ニ閲スル在京英國代理大使ノ電報ハ係官カ

本官限リトシテ内密ニ示シタルモノナルカ其ノ中ニハ同次

官カ日英協調ノ必要ナルコト最近日本ノ対支政策ノ關係上

英國側ニ於テ協調ノ意志冷却シタルヤニ思ハルルコト及日

本ノ対滿政策ハ南北ノ融和ヲ防止セントスルモノニ非スシ

テ南方政府ヲシテ外國ニ対シ一層妥協的ナル態度ヲ執ラシメントスル目的ニ出ツルモノナルコト在上海英國總領事ニ

語レル旨記載シアリ尚其ノ際係官ハ英國側ニ於テハ日英協調トハ如何ナル具体案ニ付協調スル次第ナリヤヲ承知シ度キ处今日迄其ノ点明カナラス右ハ内田全權御来英ノ上判明スヘシト期待シ居ル次第ナリト云ヘリ何等御参考迄大臣ヘ転電セリ

793 昭和3年8月27日 在仏国安達大使より

田中外務大臣宛(電報)

中國問題に関する日英協調の具體案について

内田全權より請訓

パリ 発

本省 8月27日前着

第二六四号

在英代理大使來電(七九二文書) 第二五六号ニ閲シ

内田全權ヨリ

本全權出發ノ際閣下御委嘱ノ趣旨ハ支那問題ニ閲シ日英間ニ今一段ノ協調望マシキニ付テハ此ノ際日本ノ対支立場ヲ篤ト英國當局ニ説明シ右協調ノ促進ニ資スルニアリト承知シ居ル處前記來電末段ニ依レハ英國側ニ於テハ右ニ閲シ我

方ヨリ何等カ具体案ノ開示アルヘキヲ期待シ居ルヤニ認メ
ラルル處若シ此ノ機会ニ於テ前記説明ノミナラス英國トノ
協調上今後支那時局ニ処スヘキ我方具体方針ノ大体ヲ内話
シ置クヲ可トスル御意向ナルニ於テハ何分ノ儀至急御回示
アリタシ

在英大使ヘ転電セリ

794 昭和3年9月1日 田中外務大臣より 在独國長岡大使宛（電報）

中国に関する日英協調問題および海軍軍備制限に関する我が意向について内田全権へ訓令
付記一 八月二十九日付海軍側意見
二 九月一日付陸軍側意見

本省 9月1日後4時20分発

（欄外記入一）（欄外記入二）
内田全権へ左ノ通
第七二号
一、仏宛往電第一五五号ニ閲シ貴全権ハ英國政府当局ニ對シ我カ対支政策ノ真意ヲ徹底納得セシメラルト共ニ日英兩国ノ対支協調ニ閲シ本大臣ノ意向トシテ左記要旨ヲ敷衍

（欄外記入二）（欄外記入一）
内田全権へ左ノ通
第七二号
一、仏宛往電第一五五号ニ閲シ貴全権ハ英國政府当局ニ對シ我カ対支政策ノ真意ヲ徹底納得セシメラルト共ニ日英兩国ノ対支協調ニ閲シ本大臣ノ意向トシテ左記要旨ヲ敷衍

（欄外記入三）（欄外記入四）
「日英両国カ其ノ極東政策ニ関シ多年緊密ナル提携ヲ続ケ以テ」此方面ニ於ケル平和ノ維持ニ貢献シ来レル處日英同盟ハ既ニ廢棄セラレタルモ同盟ノ精神ハ今尚ホ何等渝ル所ナキヲ信ス然ルニ近來複雜ナル各種具体的の実際問題ニ当面シテハ両国間ノ伝統的協調ノ從前ニ比シ大ニ弛緩シ来レルヲ憂ヘシムルモノアリ現ニ過日渡来ノ上海総領事 Sir Sidney Barton ヨリ吉田次官ニ対シ地方問題ニ付テノ日英協商ハ兎ニ角全支那問題ニ付テハ日英ノ利害必シモ同一ナラストノ意味ノ話アリ固ヨリ両国夫々独自ノ立場アルコトハ當然ナルモ支那ニ於テ他列国ニ比シ隔絶セル重大利害關係ヲ有スル日英トシテハ急進的展開ヲナシツツアル現支那政變ニ対シ協調ニ依リテ相互ニ利益ヲ確保スヘク支那ノ政情ノ安定亦実ニ日英ノ協調ニヨリテ助長セシメ得ヘク此際ニハ一段密接ナル協調ヲナスノ緊要ナルヲ痛感セサルヲ得ス之ヲ以テ差当リ両国ノ協調ヲ有益トスヘキ具体的問題ハ多々アルヘキモ例ヘハ海関行政塩政ノ如キハ多年ニ亘ル外国ノ協力ニ依リ今日ノ組織ヲ完成セルモノナルカ之カ維持改善ノ為ニハ引続キ

解决上調和性ニ富ム案ナリト認メ其ノ趣旨ニ賛同ノ意向ナリト承知スルニ依リ近ク帝国政府ヨリ回答アルコトヲ予期セラル

(ロ) 全般的ニ海軍力ノ一部ニ付其ノ実現ヲ図ルコト賢明ナルヘク此ノ趣旨ニ於テ主力艦問題ニ閲スル第五回軍縮準備委員会ノ声明ニ対シ帝国政府ハ特ニ深甚ノ考慮ヲ払ヒツツアリ

(ハ) 補助艦制限問題ノ解決ニハ各國々情ノ相違ト補助部隊特殊ノ使命トニ対シ周到ナル考慮ヲ加フルコトヲ要シ華盛頓比率ヲ一併ニ適用セントスルカ如キ案ニ対シテハ帝國ノ到底同意ヲ表シ難キ所ナルコト英國當路ノ夙ニ熟知スル通ナリ

参考トシテ英、米、仏、伊、白、露及寿府ヘ転電アリタシ

二、次ニ先方ヨリ海軍軍備制限問題ニ言及スル場合ニハ左ノ趣旨ニテ可然応答アリ度シ（英仏協定案ニ対スル我回答

案ノ内容ハ佐藤公使及加藤連盟海軍代表ニ就キ説明ヲ求メラレ度シ）

(イ) 最近ノ英仏協定案ニ対シ我海軍ニ於テハ補助艦問題

（欄外記入三） 海軍省軍務局長

海軍々令部第三班長ヘ写

送付済

(付記一)

昭和三年八月二十九日

海軍省

日英両国ノ協調ヲ希望スル事項トシテ内田伯ニ申入ノ件

一、海軍々備制限ニ関シ

軍縮協定ノ成立ニ対スル帝国ノ協調的誠意ト努力トハ過去有ラユル機会ニ於テ最モ真摯率直ニ之ヲ表現シツツアル次第ナリ

今回英仏両国ノ間ニ成レル海軍制限協定案ハ從前補助艦問題解決上ノ難関ヲ緩和シ実行可能ノ調和性ニ富ム一方案ナリト認メ近ク帝国政府ノ所見ヲ披瀝スル所アルヘキ筈ナリ

固ヨリ帝国政府ハ軍備制限ノ方式トシテ全海軍力ノ合理的制限ヲ行フヲ理想トスルモノナルモ事實問題トシテ大小各種ノ兵力ニ就キ一律画然タル制限ヲ設クルコトハ諸般ノ事情纏綿シテ其実現容易ノ業ニ非スト認メラル場合ニ於テハ切メテハ先ツ漸進的ニ主要兵力ノ一部ニ就テノミニテモ的確ニ其ノ実現ヲ期スルノ賢明ナルヲ思フモノナリ

此ノ趣旨ニ於テ帝国ハ華府条約ニ拠ル主力艦問題ノ内容

ニ関シテモ列國勢力ノ權衡ヲ失ハサル妥当ノ軍備充足ト國家ノ安全ト國民負担ノ輕減ヲ期シ得ヘキ軍縮本来ノ要義ニ適フ程度ニ於テ相当協定更新ノ余地アルモノト認メ曩ニ第五回軍縮準備委員会ニ於テ本問題ニ關スル英國委員ノ声明ニ對シテハ特ニ深甚ノ考慮ヲ払ヒツツアルモノナリ

而シテ補助艦制限ニ關スル限り其ノ基礎的觀念ニ於テ各

國々情ノ相違ヲ重視スルコトナク或ハ又補助部隊特殊ノ使命ニ對スル考慮ヲ欠キ本問題ノ解決上一併ニ華盛頓比率ノ適用ヲ以テ之ヲ律セントスル議案ニ對シテハ帝国ノ到底同意ヲ表シ難キ所ナルハ英國當路ノ夙ニ熟知スル所ナリト信ス

此ノ点適當ノ機会アラハ此際英國側ニ充分ノ諒解ヲ求メ置カルルコトニ努メラレ度

尙前段軍縮問題ニ對スル我態度カ常ニ英國ト合理的協調ノ趣旨ニ終始シ居ル所以ヲ高調セラレ将来帝國カ有利ノ地歩ヲ占メ得ヘキ素地ノ扶殖ニ御尽力アリ度追テ英仏妥協案ニ對スル我回答ノ内容ニ就テハ所在海軍武官ニ就キ御承知アリ度

(欄外記入) (欄外記入) 協案ニ對スル我回答ノ内容ニ就テハ所在海軍武官ニ就キ

二、支那内河航行権ニ関シ

(付記二)
拝啓

陳者日英提携ニ關スル件陸軍トシテハ特ニ具体的ニ要望スヘキ事項モ無之候ヘ共御参考迄ニ別紙御送付申上候

敬具

九月一日

有田亞細亞局長殿

杉山軍務局長

(別紙)

昭和三年八月三十一日

陸軍省

日英両国ノ提携ニ就テ

帝国ハ内外ノ情勢ニ鑑ミ日英ノ協調ヲ策スルヲ可ト信スルモ陸軍トシテハ此際特ニ具体的ニ要望スヘキ事項ナシ然レ共現勢ニ鑑ミ帝国トシテ協調ヲ要スル事項ヲ概記スレハ左ノ如シ御参考迄ニ成度

(欄外記入) 内田伯ヘ訓令方ヲ希望スルモノトシテ海軍省

ヨリ歐米局長ニ提出アリ亞局ニ於テ考慮ノ結

果訓令中ニ含メサルコトニ決定シタル部分

昭三、八、三一日

ヲ紛糾セシムルモノト認メラル從ツテ此ノ根本観念ニ関シ両国ノ一致ヲ求メ置クコト

帝国ノ満蒙ニ対スル根本方針ニ関シ篤ト諒解ヲ求メ置クコト

二、支那ニ於ケル經濟的発展、權益ノ擁護ニ関シ相互協調ヲ策スルコト但本件ニ付テハ自ラ拘束ヲ受ケサルコトニ特ニ注意ヲ要ス

三、南京政府承認問題ハ條約改正問題及公使館位置決定問題並ニ公使館移転ノ場合ニ於ケル北支駐屯軍ノ処置ニ対シ可成協調スルコト

四、支那ニ於ケル除外運動ニ対スル態度ノ協調ヲ計ルコト五、対支赤化ニ關シテハ同一歩調ヲ取りテ防止ノ策ヲ講スルコト、赤化宣伝ニ対スル通報連絡ヲナスコト

六、英米両国間ノ諸問題ニ關シテハ不偏ノ態度ヲ持スルモ帝国ノ自主利權ヲ害セサル限り英國ト協調スルコト

795 昭和3年9月(2)日 在仏國河合代理大使より
田中外務大臣宛(電報)
仏側は中國問題に関する日英仏非公式協議開

796 昭和3年9月(4)日 在獨國長岡大使より
田中外務大臣宛(電報)

内田全権より独首相に対する中國問題に関する日本の真意説明について

ベルリン 発
本省 9月4日前着

*第八五号
内田全権ヨリ

一、八月二十六日「ケログ」ノ晩餐ニハ「ストレイゼン」欠席シタルモ特ニ駐仏独逸大使ヲシテ今回調印ノ機会ニ本全権ニ面会シ得ル事ヲ欣ヒ居ル旨ヲ伝言セシメタルカ同外相ノ滯巴時日極メテ少ク調印式ノ際僅ニ挨拶ヲ交シタルニ過キサリシカ九月一日朝当地到着ニ際シテ当国外務省極東関係主任「トラウッア」ヲシテ停車場ニ本全権ヲ迎ヘシメ「ミュラー」宰相ニ於テ欣テ会見スヘキ旨ヲ伝ヘタルニ付午前十一時半重光參事官同伴之ヲ訪問セリ

二、先ツ本全権ヨリ今回来独ニ関シテ表セラレタル厚意ヲ謝シタルニ宰相ハ連盟総会出席ノ為今夜寿府ニ出發ノ為

何等御構ヒ出来サルカ貴全権ヲ茲ニ迎フルハ欣快ノ至ナリ日独關係カ戰後何等ノ故障無ク益々親善トナリ最近通商条約ノ締結ヲ見タルカ今後愈々密接トナラム事ヲ希望スト云ヒシニ付同様ノ希望ヲ述ヘタル上本全権外相ノ當時ヨリ引続キ東京ニ駐在スル「ゾルフ」大使カ両国關係ノ増進ニ努力セシヲ称揚シタルニ宰相ハ日独ノ文化關係モ益々親密ヲ加へ柏林及東京ニ於テ日獨文化協會ノ設立ヲ見タルヲ欣ヒ尚田中首相ニ於テモ種々ノ機會ニ於テ独逸ニ對シ友情アル演説ヲナサレ當國ニ大ナル印象ヲ与ヘ居リ此ノ点ハ非常ニ感謝スル次第ナリト述ヘタリ

三、宰相ハ更ニ独逸ハ戰後海外ニ殖民地ヲ喪ヒ特ニ極東ニ於テハ何等政治上ノ利害關係ヲ有セス單ニ經濟的關係ノ發達ヲ希望スルニ過キス從テ要ハ平和ノ維持ニ存シ日独ノ關係ニ於テモ通商經濟關係ノ發展増進ヲ希望スル次第ナリトテ極東問題ニ言及セルニ付此ノ機會ニ於テ支那問題ニ關スル帝國政府ノ真意ヲ充分徹底セシムルコト最近ニ於ケル独逸ノ國際的地位ニモ鑑ミ御訓令ノ趣旨ニ合スル所以ト思考シ御承知ノ如ク日本ハ領土広大ナル支那ヲ隣邦トスル処同國ノ国情ニハ幾多ノ困難アリ之ニ対スル

*第二九二号

本省 9月2日前着
パリ 発

三十一日亞細亞局長「ナジヤール」ト會談ノ際同人ハ支那問題ニ關スル三国専門家協議ハ英國側ニ於テ「ウエルズレ」來巴ヲ躊躇シ居ル模様ナル處国民政府承認問題、條約改訂問題、關稅問題等ニ付既ニ略々意見一致シ居ル日仏ノミニテ協議スルモ別段効能ナカルヘシトテ本件協議開催ニ斷念ノ口吻ヲ漏ラシ次テ南京事件仏支交渉ニ關シ本官ノ質問ニ對シ本件ハ黃郛時代相當進捗セルモ其ノ後王正廷カ不平等條約ヲ「イムメディアートマン」ニ改訂スヘントノ条項挿入方ヲ主張セル為目下行惱ノ姿ニアリ仏國側トシテハ仮令不平等條約問題ニ言及スルトシテモ本件ニ關スル英支協定ニ所謂「インデューコース」云々ノ字句ヨリモ更ニ漠然タル形式トセサレハ右支那側ノ要求ニ応シ難キ次第ナリト語レリ

在歐米各大使へ轉電シ在欧各公使へ暗送セリ

我政策上モ種々ノ難事アルニ拘ラス日本ハ支那ニ於ケル重大ナル政治上及經濟上ノ利害關係ヲ有ス特ニ滿州ニ於テ然リトス此ノ特殊ノ利益ヲ維持スルコトハ固ヨリ我当然ノ権利ナルモ日本ハ支那ニ対シ何等領土的野心無ク同國ノ秩序カ一日モ早ク回復センコトヲ希望スルモノニシテ門戸開放機會均等ノ原則ノ實行ニ就テハ何等躊躇スルモノニ非ス之ヲ要スルニ日本ノ政策カ平和主義ナルコトヲ此ノ機會ニ特ニ申上ケタント述ヘタルニ右ノ如キ言明ヲ貴全權ノ如キ人ヨリ伺フハ誠ニ喜ハシキ次第ナリ御趣旨ハ充分ニ了解セリ然ルニ當國新聞中種々日本ノ態度ヲ誤解シテ日本ニ同情無キ記事ヲ掲クルモノアルハ遺憾トスル処ナルモ政府ハ外交上ノ問題ニ付何等新聞紙ヲ制御シ得サル次第ナリト言ヘリ本全權ハ尚右ハ自分一己ノ考ニ非スシテ實ハ田中首相ヨリ特ニ閣下又ハ「ストレーヴマン」氏ニ面会ノ機會アラハ日本政府ノ意向トシテ伝達方依頼セラレタル処ナリト付言シ置キタリ

四、又独逸ハ戰後ノ復興事実殆ント完了シタリトモ謂ヒ得ヘキ狀態ニアリ独逸人ノ努力ニ敬服スト述ヘシニ御好意ハ重々感謝スルモ尚幾多ノ難事アリ特ニ外形ニヨリ判断迄英仏ニ転電アリタン

ル關係ニ徵スルモ明ナリ要ハ當面セル各個ノ具体的問題ニ於テ一層協調ノ実ヲ挙クルヲ要ストテ貴全權カ英國當局ト御會談ノ砌努メテ事實問題ニ付協議相成ル様致度ト云ヘルニ付吉田ハ英國當局ニ於テモ同様進ンテ貴全權ニ対シ各種ノ事實問題ヲ提示セラル様ニト希望シ置キタリ御参考迄英仏ニ転電アリタン

798 昭和3年9月10日 在ジュネーヴ三全權宛（電報）

日本の中國に対する立場および中國問題に關する日英協調につき内田全權よりカッシェン

別電 九月十日着在ジュネーヴ三全權より田中外務大臣宛第一三号

内田全權よりカッシェンへ手交した中國問題に関する陳述書について

題に関する陳述書について

本省 9月10日後着 発

セラレサル様願ヒ度ク独逸ノ回復ハ努力ニテハ為シ得サル処ニシテ外國ノ資本ニ負フコト重大ナリト答ヘタリ在歐州各大使、露、土、連盟事務局へ転電セリ

797 昭和3年9月6日 在ジュネーヴ三全權宛（電報）

* 第四号
内田全權へ

過日吉田次官ヨリ仏國大使ニ對シ帝國政府ハ貴全權ヨリ英國政府ニ對シ支那問題ニ付専門家非公式會合開催方ニ関スル仏國ノ提議ニ贊同スル様懇意スヘキ旨貴全權ニ訓令セリト告ヶ置キタルニ付右御含置相成度シ尚英國代理大使ニ對シ同次官ヨリ在獨大使宛往電第七二号中支那問題ニ關スル部分ノ大要ヲ語リ置キタルカ同代理大使ハ之ニ對シ日英協調ノ根本精神ニ於テハ英國政府トテモ今尚往時ト何等変ル所ナク倫敦、東京、北京等ニ於ケル日英両國官憲ノ親善ナシラレサル様願ヒ度ク独逸ノ回復ハ努力ニテハ為シ得サル処ニシテ外國ノ資本ニ負フコト重大ナリト答ヘタリ在歐州各大使、露、土、連盟事務局へ転電セリ

要請について内田全權へ通報 本省 9月6日発

其ノ対支政策ノ本意ヲ関係各國及一般輿論ニ徹底セシムル様常ニ努力シ來レル処ナルカ此機會ニ於テ親シク貴卿ニ説明スルハ蓋シ有益ナリト思考スル次第ナリ

第二ノ問題ニ付テハ從来トテモ久シク日英兩國ハ極東政策ニ関シ相提携シ此ノ方面ノ平和維持ニ貢獻シ來レルカ支那ノ時局ハ變転極リナク此ノ形勢ニ當面シ同國ニ於テ他国ニ卓越シテ重大ナル利益ヲ有スル日英兩國カ局面安定ノ為協力スルコトハ兩國ノ為ハ勿論支那自身ノ為ニモ極メテ望マシキコトト思考ストレタル上別電第一三号ノ陳述要領書

〔リツツン〕ノ「ステートメント」ヲ読ミ上ケタリ
「カ」卿ハ本全權ノ陳述ニ對シ謝意ヲ表シ且ツ大体ニ於テ反対スヘキ点ナシトテ贊成ノ旨ヲ述ヘ右陳述書ノ内容ニ關シテハ写交付ヲ受ケタル後篤ト研究スヘシト答ヘ更ニ腹蔵ナキ意見ノ交換ヲ許サレタシト前置シ左ノ通述ヘタリ

日英兩國ハ曾テ同盟ノ關係ニアリ英國政府ハ勿論自分ニ於テモ今猶之ヲ忘レス又現在ニ於テモ兩國協力ノ必要ヲ感スルコト昔ニ渝ル處ナシ然ルニ不幸ニシテ數年來日英兩國ノ關係ハ右期待ニ副ハサルモノアリ彼ノ支那開稅問題ニ於テモ英國政府ハ漸進主義ヲ以テ進マントシ當時日本政府ノ同

意ヲ得タリト思考シタルニ拘ラス實際ハ然ラシテ日本ハ單獨行動ニ出テラレタリ其ノ後モ屢々開稅問題ニテ歩調ヲ一ニセントセシモ成功セス其ノ結果タルヤ英國政府ハ其ノ主張ヲ貫徹スル能ハスシテ遂ニ一九二六年十二月十八日ノ覚書トナリ開稅問題ニ関シ支那側ニ對シ「コンミット」スルノ已ムヲ得サルニ立至リタレトモ英國政府カ兩國政府協調ヲ望ムコト昔ニ渝ラサルハ前言ノ通ナルカ故ニ主義上ノ問題トシテ今回ノ日本政府ノ提言ニ對シ同意ヲ表セントス但シ日本政府ニ於テ一概ニ協調ト云ハルモ果シテ何ヲ意味セラルルヤ將又如何ナル問題ニ付協調ヲ希望セラルモノナリヤ少クトモ今日迄ハ之ヲ明確ニ知ルノ機会ヲ有セサリシ次第ナリ只今貴全權ノ朗讀セラレタル陳述書ノ内容ニ付テハ篤ト研究ノ上ナラテハ果シテ英國政府ハ其ノ全部ニ對シ日本ト行動ヲ共ニシ得ヘキヤ即答致シ兼ヌルカ孰レニスルモ英國政府ノ行動カ前述同政府ノ覺書ニ背クヲ得サルハ已ムヲ得サル処ナリ今後兩政府協調ノ場所ニ關シテハ北京ヲ以テ最モ便トスヘシト考フ云々

依テ本全權ハ「カ」ノ所信殊ニ其ノ腹蔵ナキ意見ニ對シ謝意ヲ表シ右ハ直ニ本国政府ノ考慮ニ供スヘシト答ヘタル後

吾人モ或ル時代ニ於テ兩國政府ノ協調カ完全ヲ欠キタルコトアルヲ遺憾トスルモノナルモ時ニ政府ノ更迭カ政策ノ一貫ヲ期シ得サル原因タルコト亦已ムヲ得サル次第ニシテ前

政府ノ方針必スシモ現内閣ノ政策ト一致セス尤モ前代内閣ノ政策ト雖モ其ノ精神ニ於テ日英協調ニ反セリト謂ヒ難ク

時局ノ見立方ニ相違アリシコトモアリンナラム兔ニ角大体ニ於テ本全權ノ提案カ貴卿ノ容ルル所トナリタルヲ喜フト

述ヘタルニ「カ」卿ハ言ヲ挿ミ陳述書ノ内容ハ研究ヲ要スル旨ヲ繰返セリ本全權ハ続イテ日本政府ノ差当リ希望スル重要ナル協調事項ハ陳述書ニ記載シ置キタルモ尚他ニモ種々ノ問題アルヘシ之等ニ関シテハ普通ノ外交機關ヲ通シテ意見ノ交換ヲ為スヘク又協議ノ場所カ北京ヲ便トスヘシトル点ニ関シテハ全然同感ナルカ故ニ英國政府ニ於テモヘタルニ「カ」卿ハ之ニ全然賛同ノ意ヲ表シ且在支「ラムソン」公使ノ手腕ヲ賞揚シ最適任者ナリト付言セリ尚本全權ノ朗読セル陳述書ハ「コンフィデンシアル」トシテ

〔別電〕
内田全權ヨリ

*
第一三号

本 省 9月10日後着 発

土、蘭、西班牙へ暗送セリ

（別電）
内田全權ヨリ

「カ」卿ニ渡シタル本全權陳述書ハ之ヲ六項ニ分チ第一項ニ於テ日本政府ハ常ニ支那ノ国民的要望ニ同情ヲ有シ之カ達成ノ為列国ト協力シテ出来得ル限リノ努力ヲ吝マサリシト同時ニ此ノ種運動ニシテ國際關係ノ紛糾ヲ避ケ其ノ効ヲ収メムカ為ニハ日本自身ノ経験ニモ顧ミ支那側ニ於テ穩健公正ノ態度ニ出ツルコト肝要ナリト認メ居タル処国民軍南方ヨリ蹶起以来ノ態度ハ痛ク日本ヲ失望セシメタルコトヲ去ルコト乍是等事件ノ結果之ヲ奨励シ若ハ事件（後）之ヲ看過セントスル国民政府ノ態度傾向暴露スルニ至リタルヲ以テ日本政府トシテ山東乃至滿州方面ニ對スル予防手段ヲ講スルノ已ムナキヲ得サリシコトトテ山東出兵並ニ滿州ニ別電第一三号ト共ニ英、米、仏、独、伊ニ転電シ白、露、

関スル警告問題ヲ累次御声明ノ趣旨ヲ繰返シタル後第三次以下我對滿關係日支條約廢棄問題ヨリ進ンテ日英協調ニ及ヒタルカ其ノ要旨邦訳左ノ如シ

第三項、抑滿州ハ日本国民ノ史的關係ヲ有スル地方ナルカ曾テ露國ノ霸權ヨリ十万ノ生靈ト數十億ノ戰費ヲ犠牲ニシテ之ヲ解放シタル地方ニ係リ单ニ此ノ歴史的理由ノミ云フモ日本国民ノ滿州ニ對スル感情ハ極メテ銳敏ナルモノアル處朝鮮ト接壤シ政治上国防上極メテ重大ナル利害關係アルノミナラス二十有余年官民苦心ノ結果夥シキ帝國在留民ヲ至レリ今ヤ該地方ニ於ケル秩序ト安寧ノ維持トハ日本国民ノ絶対ニ必要トル処ニシテ右ニ對スル脅威ハ其ノ原因ノ如何ヲ問ハス日本国民ノ断シテ黙シ得サル所ナリ

然レ共日本ハ滿州ニ於テ何等領土的野心ヲ有スルモノニ非ス又素ヨリ何等特殊ノ政治的計画ヲ実現セムトスルモノニ非ス日本ノ希望スル処ハ滿州カ支那主權ノ下ニ門戸開放、機會均等ノ主義ニ則リ外国人安住活動ノ地域トシテ保持セラルニ在リ從テ如上ノ要件ニシテ滿サル限リ滿州ニ如斯ヘキ用意ヲモ有スルモノナリ

第五項、日本政府ハ支那ニ於ケル現在ノ事態並ニ制度力不自然ニシテ國際關係ノ変遷ニ鑑ミ是ヲ調整スルノ要アルヲ認ムルニ吝ナラスト雖是等特殊狀況ノ多クハ過去ノ必要ニ基キ漸次發達ヲ遂ケタルモノニシテ是ニ急激ノ変革ヲ加フル時ハ啻ニ列國ノ通商ヲ阻害スヘキノミナラス支那自身ノ經濟組織ニモ鮮カラス惡影響ヲ及ホスモノト思考スルモノナリ此ノ点ニ關シ支那ニ於テ他国ニ卓越セル權益ヲ有スル日英両國ノ利害關係ハ特ニ深甚ナルモノアルヘシ

第六項、以上ニ於テ支那時局ニ對スル日本政府ノ意向、方針ヲ率直ニ披瀝セルモノナルカ日本ハ英國政府是ヲ其ノ既ニ宣明セラレタル対支政策ニ對比シ何等牴觸スル処ナシト認メラルヘシト信スルノミナラス過去ニ於テ日英両政府ノ

何ナル政權現ハルルモ日本政府ノ特ニ意ニ介セサル處ナルヲ以テ南京政府ニ於テ滿州ノ現状ヲ破壞スルカ如キ政策ヲ実施セス又日本^(支カ)通商條約廢棄ノ如キ重大ナル國際的信義ノ破壞ヲ敢テセサル以上日本政府トシテハ主義トシテ奉天當局ト南京政府トノ妥協ニ反対スルモノニ非ス

第四項、日支通商條約ハ經濟上其ノ他(両)國關係ノ基礎ヲ為スモノニシテ之カ改訂ハ極メテ重大ナリ日本政府ハ一方支那ノ要望ニ鑑ミ他面日本ノ支那ニ於ケル經濟的地位ニ顧ミ慎重考究ノ結果右改訂ノ議ニ応シ其ノ後支那政情不安ノ為交渉上幾多ノ不便アリシニ拘ラス日本政府トシテハ右力右交渉ノ進捗ニ努メタリ然ルニ最近南京政府ニ於テハ右經緯ヲ無視シ條約ノ明文ニ違背シ日支兩國條約ヲ遇スル約ノ成立ニ至ル迄支那ニ於ケル邦人及我通商條約ヲ遇スルニ其ノ一方的作成ニ係ル臨時弁法ヲ用ヒ以テスヘキ旨ヲ通告スルニ至レリ條約ノ神聖ハ今更叙説セストスルモ一旦或ル種ノ暴挙ニシテ容認セラレムカ日支間幾多ノ正当ナル規定ニ基ク我方ノ権利利益ハ一朝ニシテ覆サルルニ至ルヘタ此ノ種惡例ノ支那ト列國トノ關係ニ及ホスヘキ影響ヤ計難キモノアルヘシト認メラルカ故ニ此ノ問題タルヤ列國共

協力カ支那ノ平和ト安定トニ如何ニ貢献セシヤラ思ヒ茲ニ兩政府ニ於テ協同シテ支那ノ困難ナル現状ニ最モ適応スヘシト認メラルヘキ政策ヲ攻究セムコトヲ提言セントス而シテ右協調ノ目的ヲ以テ兩國政府間ニ於テ有益ニ攻究シ得ヘキ實際問題種々アルヘキカ中ニ南京政府ノ法律上ノ承認問題關稅率ノ決定稅關制度並ニ鹽政ノ維持改善等ハ差當リ攻究ノ要アリト思考ス就テハ英國政府ニ於テ此ノ提議ヲ容ルルノ意アルニ於テハ是等問題ノ詳細ニ付倫敦東京又ハ北京ニ於テ貴我外交機關ヲ通シ速ニ是ヲ開始スルヲ得ヘシ本陳述書「テキスト」米國又ハ加奈陀經由最近便ニテ郵送ス

799 昭和3年9月(11)日 在ジュネーヴ三全權より
田中外務大臣宛(電報)

内田全權より中國問題に関する陳述書作成に
当り特に留意したる事項について

内田全権ヨリ

往電第一二三号陳述書ノ作成ニ当リ特ニ留意シタル事項何等

御参考迄左ノ通

一、諸般ノ情報ニ徵スルニ英國當局ニ於テハ政府屢次ノ御説明ニ拘ラス我方ニ於テ滿州其ノ他ニ閑シ何等侵略的意図アリヤノ疑ヲ有スルモノノ如ク從テ全権ノ使命ニ付一種ノ不安ト警戒的態度ヲ持スルヤニ感セラレ此ノ不安ヲ一掃スルニ非サレハ兩國協調ノ素地ヲ作ルコト困難ナリト思考セラレタルヲ以テ陳述書第一項乃至第四項我対支態度ノ説明殊ニ対満關係、條約破棄問題ニ閑シテハ我方ノ立場ノ正当ナルコトヲ協調スルト同時ニ努メテ我対支態度ノ妥協的ナルヲ示シ此ノ点ニ関スル英國側ノ不安ヲ緩和スルニ留意セリ

二、又御承知ノ通り昨年以來二回ニ亘リ英國政府ノ対支覚書並其ノ後ノ外相ノ議會演説等ニ現ハレ居ル英國政府ノ対支新政策ニ徴シ我方ニ於テモ支那ノ将来ニ対シ相当建設的政策ヲ有スルコトヲ知ラシムルニ非サレハ英國側ニ於テ我方ト協調ヲ困難トスヘシト思考セラレタルニ付第四項末段ヲ以テ我方ノ建設的政策ヲ仄メカスト共ニ右

リ日英間ノ協議提議ノミニ止メタリ
英、米、仏、独、伊ニ転電シ白、土、露、葡、西班牙ニ暗送セリ

800 昭和3年9月11日 在ジュネーヴ三全権より

田中外務大臣宛(電報)

内田全権より日英協調の具体案に關し請訓

ジュネーヴ

本省 9月11日前着 発

第一六号

(七八八文書別電)

内田全権ヨリ
往電第一二三号本全権陳述書内容ノ詳細ニ対スル英國側意向

ノ如何ハ未タ是ヲ詳カニスルニ至ラサルモ八日ノ会見ニ依リ日英間協調問題ニ付互ニ意中ヲ明カニシタル次第ナルヲ

以テ陳述書末項ニ言及セルカ如ク今後北京ニ於ケル各種具体的問題ノ相談モ自然一層歩ヲ進メ得ヘキコトト思ハル素

議上第一ニ起ル問題ナルヘキ処此ノ点ニ付テハ英國側ニ於テハ比較的寛容ノ見解ヲ持チ居ルヤニ想像セラルルヲ以テ

政策力漸進主義ニシテ英國ノ既得権及地位ヲ尊重スルモノナルコトヲ感知セシムルカ為ニ第三項ヲ設ケタリ

三、將又協調ノ実行ニ付テハ客年在本邦英國大使ヨリ一般的協定ヲ申出テ閣下ヨリ右ハ變転極マリ無キ支那ノ現状ニ適セサルノ故ヲ以テ個々ノ問題ニ付協議スヘキ旨應酬

セラレタル經緯アリ今回ノ御訓令モ右ト同様ノ御趣旨ト察セラルルノミナラス實際斯ル一般的協定ハ場合ニ依リ

テハ我方ノ特殊立場ノ犠牲ヲ必要トスルニ至ルコトナキヲ保セス旁支那ノ現状ニ適セサルコト想像ニ難カラス而

已ナラス第六項末段ニ於テ今次協調ノ方法カ個々ノ具体的問題ニ付テ行ハルルモノナルコトヲ理解セシムル様為

シ置ケリ此ノ点ニ関連シ日英仏三国専門家會議ニ付貴電

第四号御来示ノ次第アリタルモ本會議立消ノ事情及形勢ハ既ニ在英大使及在仏大使発本省宛往電ニ依リ明トナリタル一方今次日英ノ協調モ結局列国ト支那トノ關係ヲ漸次整頓スヘキコトノ第一步ニシテ今後各種具体的問題ニ關スル日英間審議進捗ノ程度如何ニ依リテハ差支ナキ限り仏國其ノ他ノ関係國ニモ回示シ以テ列国間全般ノ協調ヲ促スヘキモノト思考シタルヲ以テ陳述書ニ於テハ差當

我方ニ於テハ日支通商條約破棄問題ノ如キ差当リ局面打開ノ方法ヲ攻究シ置カルル要アリト思考ス
而シテ南京政府ノ地位ノ見立方如何ニ依リテハ直ニ列国然ニ日英ノ対支條約上ノ地位其ノ他ノ關係ヲ各般ノ具体的方面ニ亘リ如何ニ調整スヘキヤノ問題ヲ生スヘキ處其ノ際我方ニ於テ我対支條約關係ノ全般ニ亘リ今後執ルヘキ段取ニ關シ一定ノ具体的の案ヲ有セサルニ於テハ啻ニ協調ニ際シ英國側ヲ惹付クルニ由ナキノミナラス同國側ノ申出ノ是非ヲ検討スルコト難ク折角ノ協調モ其ノ実ヲ挙ヶ得サルコトナリテ痛ク英國側ヲ失望セシメ延テ不信用ヲ招クカ又ハ先方ノ政策ニ引摺ラル羽目ニ陥ル惧ナントセス就テハ差出カマシキコト乍ラ此ノ際一日モ速ニ右全般的具体案ノ御準備ヲ切望ス将又本全権十四日渡英シ十七日、十八日ニハ英國當局ニモ面会ノ予定トナリ居ルニ付テハ前記北京ニ於ケル協議ハ兎モ角トン自然右當局ヨリ本全権ニ対シ種々具体的問題ヲ提起シ來ルヤモ計ラレサルニ依リ之カ応酬ノ資料トシテ具体的の方針ニ閑シ既ニ御審議済ノモノアラハ右会見ニ間ニ合フ様至急電報ヲ請フ
英米仏伊独ニ転電、白露土蘭西ニ暗送セリ

801 昭和3年9月(13)日 在伊国松田大使より

田中外務大臣宛(電報)

内田全権より中国問題に関するムツソリニ

首相との会談報告について

ローマ 発 本省 9月13日前着

* 第九七号
内田全権ヨリ

本十一日松田大使同伴「ムツソリニ」首相ヲ内務省ニ往訪二十分間程極メテ氣持良キ会談ヲナセルカ其ノ要領左ノ通リ

本全権ヨリ先ツ支那問題ニ関シ独逸ニ於テ「ミュラー」首相及「ストロウエ」ニ述ヘシ所ト大体同趣旨ノ事ヲ説述シ特ニ滿州ニ於ケル我特殊ノ地位並ニ條約廢棄問題ニ付日本政府カ強硬ナル態度ヲ執ラサルヘカラサル所以ヲ詳細説明セルニ首相ハ之ヲ謝シ良ク解セル旨ヲ答ヘタリ右説明中本全権ヨリ日本ハ滿州ニ対シ何等領土的野心無ク又同地方ニ特殊ノ政治形体ヲ設定セントスルカ如キ意図ナシト言ヘル

ニ対シテハ首相ハ自ラ之ヲ繰返シテ首肯セリ次テ談共産党運動問題ニ入り本全権ヨリ日本ニテモ第三「インターナシヨナル」カ相当活動シ居ルコト先般モ同運動関係者百人程ヲ検挙セシコトヲ述ヘタルニ頗ル興味ヲ感セシモノノ如ク支那ニ於ケル同運動ニ付質問セシニ付全権ハ近來再ヒ活動シ来リ現ニ上海ニ於テハ其ノ兆候著シト答ヘ置ケリ首相ハ伊支兩国条約問題ニ関シテハ近々ノ中ニ何等カノ解決ヲ見ルニ至ルヘシト言ヒ南北政府ノ現状ニ付テハ特ニ興味ヲ以テ尋ネル所アリシ故最近ノ情報ニ依ルモ重要幹部中二三更迭ヲ見ントシツアル由ニテ其ノ前途モ遠ニ計リ知ルヘカラサルモノアリ又馮玉祥ノ将来モ余程考慮ニ入ルルヲ要ス

ヘシト述ヘ置キタリ

英米仏獨白及寿府ヘ転電シ露土蘭西ヘ暗送セリ

802 昭和3年9月(19)日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

内田全権より中国問題に対する日英協調についての英国外務省首脳との会談報告

ロンドン 発 本省 9月19日前着

* 第二〇一号
内田全権ヨリ

九月十七日午後佐分利代理大使同伴外務次官「サー、ロウナルド、リンゼイ」ヲ訪問シ(極東部長「マウンゼイ」同席)過日寿府ニ於ケル「クツシエンダン」卿トノ会見ニ関シ既ニ報告ニ接セラレタリヤト尋ネタルニ本全権ノ陳述書モ接手シタルカ日英協調主義トシテ勿論我方モ望ム処ナリト答ヘタリ依テ本全権ハ既ニ寿府ニ於テ「ク」卿ト話合ヘル如ク具体的問題ニ就テハ北京ニテ協議スルヲ最適当ト思考スト述ヘタルニ同次官ハ英國側ニ於テモ全然同感ニテ其趣旨ニ依リ在支那公使ヘ訓令スヘキ旨ヲ答ヘタリ

更ニ同日外務大臣臨時代理「バークンヘッド」卿ノ晩餐会(同卿ノ外陸軍大臣「サー、レイミング、ウォシントン、エバンス」「リンゼイ」外務次官、商務次官其ノ他英國側官吏及大使館員ノミ出席)ノ席上同卿ハ本全権ニ對スル「トースト」ニ就テハ支那問題ニ関シ先ツ同國現下ノ困亂(混力)状態ヲ述ヘ之ニ対シ日英ノ利害関係重大ナルヲ説キ両国カ

タリ

尚右「トースト」後ノ雑談中「バークンヘッド」卿ハ自分ノ所言ハ内閣ノ意見ヲ代表シ居ルモノト看做シテ可ナリト繰返シ述ヘ居タルカ右雑談中陸軍大臣ノ話ニ依レハ前記本全權ノ陳述書ハ既ニ閣僚一同ニ回覧セラレ居ルモノノ如シ又右晩餐ニハ陸相ハ特ニ興味ヲ感シ避暑地ヨリ帰リ進ンテ列席セル由ナルカ本全權トノ談話中得タル印象ニ依レハ英國陸軍側ニハ今回ノ日英協調ノ話ヲ上海撤兵及同地治安維持問題ノ処理ニ利用セントスル底意アルヤニモ察セラレタリ

將又極東部長カ翌日大使館ニ於テ本全權ト会見ノ際本全權ト次官トノ前記会談ヲ補足シ語ル處ニ依レハ上記英國側ニ於テ考ヘ居ル協調トハ各般ノ問題ニ付絶エス隔意ナキ意見ノ交換ヲナシ意見一致セルモノニ付テハ同一ノ歩調ニ出ツルハ勿論ナルモ何事ニ付テモ常ニ同一ノ歩調ニ出ツルコト事實不可能ナリ從ツテ仮令双方ノ事情相違ノ為同一ノ歩調ニ出ツルヲ得サル場合ニモ一方ノ執ルヘキ行動ニ付テハ他方ニ於テ充分其ノ立場及理由ヲ了解シ得ルカ如キ状況ニ置カントスルニアリト述ヘタルニ付本全權ニ於テモ右ハ全然同感ノ旨ヲ答ヘ置キタリ

尚右「トースト」後ノ雑談中「バークンヘッド」卿ハ自分ノ所言ハ内閣ノ意見ヲ代表シ居ルモノト看做シテ可ナリト繰返シ述ヘ居タルカ右雑談中陸軍大臣ノ話ニ依レハ前記本全權ノ陳述書ハ既ニ閣僚一同ニ回覧セラレ居ルモノノ如シ又右晩餐ニハ陸相ハ特ニ興味ヲ感シ避暑地ヨリ帰リ進ンテ列席セル由ナルカ本全權トノ談話中得タル印象ニ依レハ英國陸軍側ニハ今回ノ日英協調ノ話ヲ上海撤兵及同地治安維持問題ノ処理ニ利用セントスル底意アルヤニモ察セラレタリ

803 昭和3年9月21日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛（電報）

内田全權より日英協調の具体案に關し再請訓

ロンドン 発

* 第二〇九号

内田全權ヨリ
往電第二〇一号ニ閲シ

英國側ノ日英協調問題ニ対スル意向ハ大体明瞭トナレルヤニ思考セラルル處要スルニ英國閣僚間ニ於テハ協調ノ空氣相当濃厚ナルヲ認ムヘキト同時ニ一方現ニ外交ノ実務ニ当リ居ル同国外務當局ニ於テハ種々具体的問題ニ付考究シ居レル為カ今尚留保的口吻ヲ洩シ居リ協調ノ前途ハ必スシモ容易ナラスト察セラルルモ英國側ニ於テハ既ニ協調ニ閲シニ出ツルヲ得サル場合ニモ一方ノ執ルヘキ行動ニ付テハ他方ニ於テ充分其ノ立場及理由ヲ了解シ得ルカ如キ状況ニ置カントスルニアリト述ヘタルニ付本全權ニ於テモ右ハ全然同感ノ旨ヲ答ヘ置キタリ

有効ナルヘキニ付テハ此ノ際先ツ以テ出来得ル限り英國トノ協調ニ努ムル要アリト思考ス然ルニ若シ寿府三全權発閣下宛電報第一六号申進ノ通我方ニ於テ支那時局ニ処スヘキ具体案ヲ有セサル時ハ今後北京ニ於ケル彼我代表者間ノ隔意ナキ意見交換モ充分ナル能ハス從テ折角ノ協調モ我方ノ有利ニ利導シ難カルヘキニ付テハ我方ニ於テモ在支公使ニ對シ速ニ右具体案ニ基キ充分ノ訓令ヲ与ヘラレ同公使ニ於テ英國側トノ応酬上遺憾ナキヲ期セシメラレンコトヲ希望ニ堪エス既ニ御手配中ト存スルモ英國側ニ於テハ今回ノ会談ニ際シ非公式乍ラ北京ニ於ケル日英間ノ話合カ思フ如クナラサルコトヲ訴ヘ居レル事情モアルニ付右重ネテ申進ス米、仏、独、伊、白、露、連盟事務局ヘ転電シ、土、蘭、西、瑞典ニ暗送セリ

804 昭和3年9月22日 在英國佐分利臨時代理大使より
田中外務大臣宛（電報）

日英協調に關し在中国英國公使へ訓令せる旨

の極東部長内話について

訓令に關し内田全權へ内報について

805 昭和3年9月28日 田中外務大臣より
在米國沢田臨時代理大使宛（電報）

在上海矢田總領事および在奉天林總領事らに

与えた日中間新局面の展開に處する我が方針

(欄外記入) 第二一二号
内田全権へ

支那関係情報ハ累次ノ大使館宛電報ニテ御承知相成度尚当方ニ於テハ先般來矢田上海総領事、堀北京參事官、林奉天総領事ヲ順次当地ニ招致シ現地ノ状況ヲ聴取シ同官等ハ既ニ夫レ夫レ帰任シタルカ矢田総領事ニ対シテハ国民政府ニ於テ近ク五院制度成立シ同政府ノ基礎固マルニ至ラハ（往電合第三六三号参照）条約問題及濟南事件等ノ交渉ヲ開始シ日支間局面ノ展開ヲ計ル様訓令シ置ケリ又滿鉄社長目下大連ニ在ル処右ハ主トシテ先般北京ニ於テ秘密ニ取極ヲ了シタル吉会線及長大線ノ建設ニ尽力セシメ居ル次第ナリ他方林総領事ニ対シテハ東三省ノ内地開放経済開発ニ関スル方針案ヲ授ケテ帰任セシメタルカ其ノ交渉開始ノ時期ニ付テハ支那情勢ノ変化ヲ注視シ居ル次第ナリ右ハ何レモ適當ノ機会ニ重ナル外国代表者ニハ内話ノ積ナルカ未タ其ノ時機ニアラスト認メ秘密ニ付シ居ル次第ナルモ閣下限り内密ノ御含迄ニ電報ス

（欄外記入）英ニ転電シ英ヨリ仏ニ転電セシムヘキ旨十月一日米ニ訓電済

806 昭和3年9月30日 在米國沢田臨時代理大使より
中外務大臣宛電報（番号不明）

対華協調問題に関する陳述書をめぐるケロツ
グ米国國務長官との会談について内田全権報告

付

記 九月三十日着在米國沢田臨時代理大使より

米國國務長官宛對華協調問題に関する陳述書について内田全権報告

ワシントン 本省 9月30日後着

内田全権ヨリ
第三二八号

在米代理大使発閣下宛電報第三二五号末段ニ関シ

本二十九日午前沢田代理大使同伴「クロッグ」國務長官ト一時間有余互ニ最モ打解ケタル態度ニテ会談セリ（「ジョソソ」次官補モ同席）其ノ要領左ノ通

先ツ本全権ヨリ日本出発前田中總理ヨリ支那問題ニ關シ貴

長官ト懇談スヘキ旨ノ委嘱アリタル次第ヲ前置シ為念用意シタル陳述書ヲ読み上ケタリ同陳述書ノ内容別電第三二九号ノ通ナリ

右ニ対シ國務長官ハ熱心ニ之ヲ聽キ取りタル後次ノ如ク述ヘタリ

山東出兵問題ニ就テハ日本ハ昨年モ本年モ出兵セラレタルカ其ノ都度現地ニ于ケル日本人ノ生命財産ノ危険ナキニ至リタル上ハ之ヲ引揚クヘキ旨ノ宣言ヲ為サレタル處昨年ハ右宣言ヲ忠実ニ實行セラレタリ從テ今回モ右ノ危険去リ次第撤兵セラルコトヲ確信シ居リ此ノ点ニ関シ何等日本ノ誠意ヲ疑ハス現ニ此ノ事ハ當地支那公使ニモ篤ト話置キタル次第ナリ

米国ニテモ在支米人保護ノ為兵員ヲ派遣シ居リ時局ノ漸ク安定セントスルニ鑑ミ之カ一部分ヲ引揚ケ差当リ天津ニ四百上海ニ一千丈ノ海兵ヲ殘留セシムルコトト為シ居レリ而シテ右殘留海兵全部ヲ何時引揚クヘキヤハ今ノ所見据付カサルモ時局ノ平定ト共ニ之ヲ實行シ度所存ナリ

次ニ條約改訂ニ關シテハ自分カ一九二七年ノ宣言ヲ為ス前ニ當國下院ニ於テ米国ハ支那ノ國民的要望ニ副フ趣旨ヲ以

元来國民政府ノ将来カ如何ナルヘキヤ不明ニシテ現在ノ支那時局ヲ以テ直ニ安定ノ域ニ達シタリトモ云ヒ得サルヘク又支那各地ニ共產分子絶滅セル証ニモアラサルモ南京政府ニ於テハ共產党分子ニ代テ穩健ナル分子カ勢力ヲ得漸次其ノ根底ヲ固メ來リツツアル如ク頗ル有望ナル形勢トナレリ斯ノ如キハ最近數年間其ノ例ヲ見サル現象ニシテ此ノ形勢ハ出来ル丈之ヲ支援助長セシムルコト肝要ト認メ居リ支那ト重大關係ヲ有スル日英仏モ亦同様ノ態度ニ出テラレンコ

ト希望ニ堪ヘスカル情勢ノ下ニ先般支那ニ於ケル前述ノ約束実行ヲ迫リ来リシ故関税条約ヲ締結スルコトナリアリ実ハ本問題ニ就テハ前記一昨年ノ宣言以来種々研究シ來リ先般大体ノ成案ヲ得タル故之ヲ基礎トシテ支那側ト交渉スルコトセシカ案外ニモ支那側ニテ右成案ノ盡ニテ可ナリトノコトナリシニ付話合ハ急ニ進捗セシ次第ナリ而シテ此ノ上ハ進ンテ一般条約ノ問題モ近キ将来ニ於テ之ヲ解決シタント考ヘ居レル処只治外法權問題ハ頗ル難問ナリ
目下極東部ニ於テ銳意研究中ニシテ未タ成案ヲ得サルカ日本側ニ於テハ右ニ閔シ何カ考ノ次第アリヤトノコトナリシ付自分ハ二ヶ月以前ニ東京ヲ出発シタレハ此ノ点ニ閔スル日本政府ノ現在ノ意向ハ之ヲ詳ニセサルモ条約改訂又ハ治外法權問題ニ対シテハ陳述書中ニモ記載シアル通出来得ル限リ支那ノ要望ニ応シタキ考ナルモ如何セム突然一方的条約破棄ノ如キ暴挙ニ出テラレテハ先ツ此ノ点ノ解決ヲ計リ支那側態度ノ改良ヲ見ルニアラサレハ何事ニモ著手シ難キ立場ニアリ固ヨリ日本カ支那ノ国民的要望ニ同情スルコトハ米国ト異ラサル義ニ付結局ハ何カ良キ方策見出タサルルニ至ルヘシト思ヒ居レリ又撤兵ノ約束ハ昨年ハ其ノ必要ニ在リト述ヘ置ケリ

尚陳述書ハ國務長官ニ手交シ置キタリ

本電別電ト共ニ英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊、独ニ転電シ白、露、土、蘭、西、瑞典ニ暗送セシム

(付記)

ワシントン
本省 9月30日後着 発

ナキヲ見ルヤ直ニ之ヲ実行セリ現在駐屯ノ兵モ我居留民ノ生命財産ニ何等危害ノ虞ナキニ至レハ直ニ撤退スルコト勿論ナリトテ先年華府會議ノ結果タル山東條約ヲ忠実ニ履行シタル経験談ヲ為シ置ケリ更ニ「ケロッグ」氏ハ條約問題ニ立戾リ米支條約ハ日本ノ夫レト規定ヲ異ニシ居リ改訂ニ便ナル点アリ旁叢ニ関税条約ヲ結ヒタル次第ナリ兎ニ角通常條約問題ニ閔シ日本ニ於テモ支那側ト適當ノ談合ヲ付ケ之ヲ進捗サレテハ如何ト存ス日、米、英、仏ノ強国カ互ニ支那ヲ守リ立テコソ支那ノ政局ハ安定スル訳ニテ若シ今度安定セサレハ何時安定出来ルヤモ知レスト述ヘタルニ御積リナリヤト問ヘルニ右ハ未タ確定シ居ラサルモ兎ニ角沢田代理大使ヨリ一般条約問題ニ付テハ米国ハ单独ニテ交渉セラル御積リナリヤ夫レトモ他国ト共同的ニセラル御積リナリヤト問ヘルニ右ハ未タ確定シ居ラサルモ兎ニ角米国トシテハ何事カ之カ交渉ヲ為シタキ意向ニテ其ノ内主ナル関係国ニ対シ本問題ニ閔スル意向ヲ承知シタク考ヘ居レリト答ヘタリ依テ本全權ヨリ日本ニ於テ支那ヲ援助スル充分ノ誠意アルモ前述ノ如ク支那側ニテ条約ヲ一方的ニ破棄スル暴挙ニ出テ来リシ為如何トモシ難ク濟南事件ニ付テモ我方ヨリ之カ円満ナル解決ヲ希望セシモ先方ニテ之ニ応

國務長官ニ対シ陳述要領書ハ之ヲ五項ニ分チ置キタルカ第一項乃至第四項我對支立場並政策ノ説明ニ閔スル部分ハ對英陳述書第一項乃至第四項ニ何等實質上ノ変更ヲ加フル事無ク只米国最近ノ対支立場ニ顧ミ不必要ニ同國ノ感触ヲ刺戟スヘシト思ハル点ニ付文字上ノ改善ヲ加ヘ又滿州ニ対スル我方ノ地位ノ説明ニ付在米大使宛合第三一九号ノ趣旨ニ依リ数字ヲ加ヘタル上第五項トシテ一般的協調ニ閔スル一項ヲ加ヘタリ即チ惟フニ以上日本政府ノ対支態度ハ米國政府カ現ニ支那ニ対シ採ラレツツアル政策ト相抵触スル處無カルヘシ支那ノ現事態ハ有望ナラサルニ非サルモ尚種々ノ難問ヲ伴ヒ居レリ從テ列國側ニ於テ此ノ事態ニ対応スキ最良策ハ互ニ協調ノ精神ヲ以テ行動スルニアリト信ス此ノ確信ノ下ニ日本政府トシテハ支那ニ深甚ノ利害關係ヲ有スル諸國殊ニ華府條約調印國カ常ニ此ノ協調ノ精神ニ基キ共通ノ利害關係アル問題ニ付時々隔意ナキ意見ヲ交換シ而シテ支那ニ於ケル政治狀態ノ安定並永続的平和ノ確立ニ対シ各々貢献セムカ為出來得ル限り共同ノ歩調ニ出テム事ヲ希望シテ已マス

尚本陳述書ノ内容ニ顧ミ英陳述書ノ場合ニ於ケル如ク之ヲ

(一) 支那ノ一部ニシテ日本ニ接近セル満州ノ平和ハ歴史的及
経済的関係ヨリ更ニ我ノ重視スル處ナリトテ貴電第三九
号同様ノ趣旨ヲ敷衍説明シ日本ハ満州ニ於ケル支那ノ主
権ヲ侵シ又ハ同地域ニ特別ノ政治組織ヲ作ラントスルモ
ノニ非ス同地域カ在留外人ノ生命財産ヲ尊重シ條約ノ義
務ヲ履行シ其ノ平和秩序ヲ維持スルニ足ルヘキ政府ノ管
理ノ下ニアルヲ切望スルニ外ナラス支那カ其ノ国家主權
ヲ行使スルト共ニ右主權ニ付隨スル義務ヲ履行シ得ヘキ
鞏固ニシテ責任アル統一政治ヲ速ニ樹立スルコト

(二) 日本ノ対支政策ニシテ前述ノ如クンハ支那問題ニ對シ日
米両国ノ協調ヲ妨クルヘキモノナク其ノ門戸開放機会均
等ノ主義ヲ支持スルコトニ於テ両国ノ見解ハ全ク一致ス
ルモノナリ支那ハ其ノ商工業ノ進展ヲ計ル為外國ノ投資
及企業ヲ必要トス日米両国ノ完全ナル諒解及協調ハ支那
ノ復興ニ貢献スル処大ナリ

(三) 由來日米両国ハ親善關係ヲ維持シ來リ相互ノ立場了解ニ
努メ移民問題ノ一項ヲ除ク外両国間ニ煩ハシキ問題無ク
本問題モ米国民ノ正義及公正ノ念ニ依リ早晚満足ナル解
決ニ達スルモノト思考ス

(四) 機密文書トシ置カサリシ處米国ノ国情ニモ顧ミ本陳述書ノ
本文ハ兎モ角其ノ要領ハ当国當局者ニ於テ記者定例会見ノ
場合等ニ之ヲ洩ラスヤモ計リ難ク孰レニシテモ本全權ト米
國當局者トノ会談ニ於テハ新聞記者等ニ於テ種々想像ノ上
歐州方面ニモ電報スヘシト察セラル日英協調談ノ經緯ニ鑑
ミ右米国當局者ニ對スル陳述ノ要旨（往電第三二八号先方
トノ應答ノ内容ハ素ヨリ英國側ニ内話ノ限リニ非スト思考
ス）ハ早目ニ英國當局者ニ内報スル事機宜ニ適スト思考セ
ラル就テハ御同感ナルニ於テハ右ノ趣旨ニテ在英代理大使
宛至急御訓令相煩シ度シ

編注 電報番号不明なるも別電第三二九号と思われる。

807 昭和3年10月(5)日 在ニュー・ヨーク斎藤總領事より
田中外務大臣宛（電報） 内田全權を主賓とする晩餐会における米側財
界学界人等との懇談について

ニュー・ヨーク 本 10月5日後着 発
第五九号

(一) 日本ハ国民政府ノ運動ニ對シテハ深甚ノ同情ヲ有シ支那
ノ統一平和秩序維持ヲ援助スルニ咨ナラス

(二) 次テ元合衆国司法卿「ウイツカシヤム」ハ内田伯ト旧交ヲ
温メタルコトヲ喜ヒ当国朝野ハ日本カ世界ノ永久平和維持
ニ努力シ居ルヲ認ムト述ヘ日本協会々長「タフト」ハ先づ
内田伯ノ駐米大使タリシ時代ヲ回顧シ次テ其ノ外相タリン
時代東京ニ於テ日米代表者間日米問題ヲ攻究シタル際關係
ノ資料ヲ隠シ隔テナク提供セラレタルコトヲ感謝シ次テ
「レデオ」社々長「ハーボード」ハ自分ハ軍人出身ナルモ
軍人ノ第一義務ハ世界政府平和ヲ維持スルニ在リ自分ハ実
ハ今回ノ不戰条約ノ効果ニ余リ信ヲ置ク能ハス文明ハ未タ
國際爭議ヲ全ク戦争ニ依ラスシテ解決シ得ルノ域ニ達シ居
ラス今後モ政治家ノ誤ニヨリ自分等ノ生命ヲ捧ケサルヘカ
ラサル場合之アルヘン然レトモ今回ノ條約ニヨリ戦争ヲ延
期シ得ヘキコトハ明ナリ斯ル提議カ支持称賛ノ価値アルコ
トハ疑無シト結ヒ終リニ「モルガン」社「ラモント」ハ余
ノ内田伯ト折衝ヲ重ネタルハ一九二〇年ニシテ其ノ際伯ハ
非常ノ忍耐ト技倅ヲ示シ対支借款團問題ニ付満蒙ニ闊スル

日本ノ留保条件ヲ撤回シ借款團ヲ成立セシムルコトニ大ニ尽力セラレタリ不幸借款團ハ其ノ組織本来ノ不備ニアラス全ク支那動乱ノ為未タ實際ニ活動スルニ至ラサルモ他日支那ニシテ其ノ開發ノ為經濟的援助ヲ求ム立場ニ至ルコトアラハ該借款團ハ之ヲ援助スヘク米國銀行家ハ日本ノ銀行家ト提携シ英仏銀行家等ト共ニ協調シテ支那ヲ支援スルニ客ナラサルヘシ其ノ後幾多ノ事件出来シ日本ハ幾多困難ナル問題ニ際会シタルモ能ク之ヲ切抜ケタリ又米國ハ其ノ都度日本ニ援助ヲ与ヘタルハ一九二三年閩東震災ノ際米人ノ同情ヲ寄セタル一例ヲ想起スルモ明カナリ次テ一九二四年ノ日本政府復興外債ヲ初メトシテ東京横浜市債米國ニ於テ募集セラレタルカ其ノ米國市場ニ於テ多大ノ成功ヲ収メタルハ偏ニ米人ノ日本ニ対スル同情ト其ノ日本政府ニ対スル信用トニ基クモノト謂フヘシ今夕吾々ハ内田伯爵ノ日本ノ対満政策ニ付言及セラレタルヲ多大ノ興味ヲ以テ聽取シタリ同伯ハ今日迄日本側ヨリ出テタル声明ノ孰レヨリモ余程進ミタル自由的見地ヨリ論セラレタルヤニ存ス從來米國ハ滿州ニ関スル日支關係ニ付不安ヲ感シ居リタルコト否定スヘクモ非ス本問題ハ実ニ多クノ難局ヲ含ムモノト謂フヘシ吾

編注 別電第六〇号見当らず。

808 昭和3年10月15日

田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛（電報）

中国問題に対する日英協調実現について

本省 10月15日発

* 第五二八号

对支日英協調ニ關シ内田伯爵カ英國當局ト会談ノ次第ハ隨時ノ転電ニ依リ御承知ノ通リナル處内田伯爵察ニ依レハ英國閣僚間ニハ協調ノ空氣濃厚ナルモ外交ノ實務ニ當リ居ル同國外務當局ニ於テハ稍留保的口吻ヲ洩シ居レリトノコトナルカ我方トシテモ具体的問題トシテハ協調容易ナラサルモノモ之有ルヘキハ覺悟シ居ル所ニテ又英國トシテハ一昨年ノ對支覚書ニ束縛セラレ容易ニ之ヲ変改シ難キ事情之有ルヘキコトモ想像シ居ル所ナルモ各國カ歩調ヲ乱シ支那ニ對スル讓歩退嬰ヲ競フカ如キ現状ヲ見テハ其ノ結果ノ那辺ニ及フヘキカラク憂慮セラルヲ得サル次第ナリ故ニ日本トシテハ各國ノ協調殊ニ動モスレハ弛緩セムトスル日英ノ協調ヲ旧状ニ恢復スルヲ以テ此ノ際ノ急務ト信シ内田伯爵

度日本ニ援助ヲ与ヘタルハ一九二三年閩東震災ノ際米人ノ同情ヲ寄セタル一例ヲ想起スルモ明カナリ次テ一九二四年ノ日本政府復興外債ヲ初メトシテ東京横浜市債米國ニ於テ募集セラレタルカ其ノ米國市場ニ於テ多大ノ成功ヲ収メタルハ偏ニ米人ノ日本ニ対スル同情ト其ノ日本政府ニ対スル信用トニ基クモノト謂フヘシ今夕吾々ハ内田伯爵ノ日本ノ対満政策ニ付言及セラレタルヲ多大ノ興味ヲ以テ聽取シタリ同伯ハ今日迄日本側ヨリ出テタル声明ノ孰レヨリモ余程進ミタル自由的見地ヨリ論セラレタルヤニ存ス從來米國ハ満州ニ關スル日支關係ニ付不安ヲ感シ居リタルコト否定スヘクモ非ス本問題ハ実ニ多クノ難局ヲ含ムモノト謂フヘシ吾

人ハ此ノ問題ヲ過小視スルモノニ非スシテ總テノ点ニ付好意的考慮ヲ加ヘムトスルモノナリ若シ夫レ日本ノ態度ニンテ内田伯ノ語ラレタル如クナルニ於テハ吾人ハ日本カ從来日米關係ニ付示シタルト同様ノ忍耐ヲ以テ良ク此ノ難関ヲ切抜クルナラムト確信シ居レリ余ハ繰返シ日本ノ高明ナル態度ト其ノ國運ヲ進展スル力量トニ対シ吾人ノ信念ヲ披瀝シ且日本ニ対スル不変ノ友情ヲ力説スルモノナリト述ヘタリ

宴席ヲ離レシ後内田伯ノ演説ニ対シ讃辞ヲ呈スル者多ク「タイムス」社「ローズベルト」ノ如キハ本演説ハ歴史的文書タルヘント語リ居レリ

右ニ関シ三日発ノ当地朝刊及夕刊新聞ハ孰レモ内田全権演説ノ要旨ヲ掲載シ更ニ四日紐育「タイムス」及「イヴニング・ポスト」ハ其ノ社説欄ニ於テ別電第六〇号ノ如キ論評ヲ掲載シ居レリ目下大統領選挙ニ關スル新聞記事輻輳ノ際トシテハ充分我方「パブリシチー」ノ目的ヲ達シ得タルモノト思考ス

在米代理大使ヘ郵送シ在桑港総領事ヘ転電シ内田全権ニ提示セシム

ノ渡欧ニ際シテ英米當局ニ対シ日本ノ意ノ存スル所ヲ伝フルニ力メタル次第ニシテ此ノ上共誠実ニ此ノ方面ニ努力シ度内田伯爵ニ依リテ英國當局ノ一応ノ諒解ヲ得タル対支日英協調カ出先ニ於テ機会アル毎ニ實現セラルニ至ラムコトヲ深ク希望スル所ナリ依テ十二日最近帰任セル在本邦英國大使ニ會見ノ際ニモ本件ニ關シ別電合第三九六号ノ通り申述ヘ置キタル次第ナルニ付テハ既ニ貴官ニ於テモ最近特ニ日英ノ協調ニ力メ居ラルコトハ充分承知致シ居ルモ此ノ上共上記ノ趣旨ヲ体シ各種ノ機會ニ於テ能フ限リ進ンテ英國ヲ支援スルノ態度ニ出テ成ルヘク其ノ都度右我方ノ態度カ過般ノ内田全権ト英国外務當局トノ会談ノ精神ニ基クモノナル旨ヲ繰返シ以テ精神的ニモ具体的ニモ日英間ヲシテ益々協調セシムル様努力相成度

上海、奉天、英ニ転電セシム
英ヨリ米、仏、伊ニ転電セシム

編注 別電合第三九六号見当らず。

809 昭和3年10月23日 田中外務大臣
ティリー英國大使 会談

国民政府承認問題および公使館昇格問題など

について

*大臣会見録

十月二十三日午後五時英國大使「サー・ジョン・ティリ

ー」田中大臣ヲ來訪ス

大使ハ本国外務大臣代理ヨリ電訓接到シタルニヨリ之ヲ御伝ヘスル為特ニ御邪魔ンタル次第ナリトテ左記趣旨ノ電信ヲ讀上ケタリ

「貴官ハ外務大臣（田中總理）ニ対シ次ノ趣旨ニヨリ同大

臣ノ友好ナル御言葉ニ対シ自分ノ謝意ヲ伝ヘラレタシ内田伯ノ訪問ハ隔意ナキ意見交換ノ好機ヲ与ヘ両国政府ヲシテ支那ニ於テ有スル共通ノ利害ニ関スル問題ニ付慎重ニ考慮セシムルニ至ラシメタリ
日支ノ間ニ有望ナル関係發生セムトシツアルヲ聞クハ自分ノ欣幸トスル所ナリ支那ノ政情安定ニ向フト共ニ日支ノ交渉モ順調ニ進ムコトト信ス
支那ハ英國ニ対シテモ公使ヲ任命セムコトヲ提議シ来リタルカ英國トシテハ條約締結ノ交渉終了ヲ待ツコト然ルヘキ旨回答シタリ

条約ノ調印ハ素ヨリ政府ノ承認トナリ從テ支那公使來任ノ段取トナルヘク英國トシテハ正式ノ宣言ニヨルヨリモ寧口此方法ニヨリ承認ヲ与フルコトナルヘシ

公使館ヲ大使館ニ昇格スル問題ニ付テハ未タ明確ニ意志ヲ表明シ来リ居ラス

北京ニ於ケル日英両公使ノ協議ニ付テハ外務大臣ハ充分報告ニ接シ居ラルコトナルヘキモ同大臣ト貴官トノ緊密ナル接触ハ大切ナリ

之ニ対シ大臣ヨリハ

右外相代理ノ御言葉甚々有難ク承リタルカ殊ニ最後ノ貴大使ト自分トノ間ニ益々接触ヲ保ツコトヲ重要視シ居ラルル点ヲ聽キ欣快ニ堪エス貴大使モ今後共ノ趣旨ヲ体シテ何事モ腹蔵ナク御相談アラムコトヲ望ム旨ヲ述ヘラレタリ更ニ英國大使ヨリ最近南方ニ於ケル「ハッセフレーク」ト宋子文トノ間ノ塩務ニ関スル話合ヒ面白カラサル為北京ニ於テハ關係三国公使間ニ協議ヲ重ネツツアル趣ナルカ同問題ニ付閣下ヨリ英國政府ニ申入レラレ度キコトモアラハ自分ハ喜ンテ取次クヘキ旨ヲ述ヘ

大臣ハ自分ハ先週末ヨリ京都ニ旅行致シ本朝帰京セシハカ

リナル為メ未タ該問題其ノ後ノ発展ニ關スル電信等ヲ閲了致シ居ラサルモ何レ御願ヒスヘキコトモアルニ至ラハ更メテ御足勞ヲ煩ハスコトトスヘシト答ヘラレタリ

（昭和三年十月二十四日 沢田電信課長口述）

810 昭和三年12月28日 在中國堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛（電報）
英公使が孫科等中國要人に対し日英關係につ
き言及したことについて

北 京 発
本 省 12月28日後着

往電第一七三一号ニ関シ

二十八日英國公使ハ南京ニ於ケル同公使ノ孫科、王寵惠、胡漢民ニ對スル論議ニ關シ補足的ノ説明ヲナセルカ右ハ南京領事發電ノ如ク其ノ骨子トシテ英國ノ全世界ニ亘ル權益

ノ維持カ世界ノ平和ヲ必須条件トスルモノニシテ東洋ニ在リテハ日英ノ平和關係カ英國ノ重要視セサルヘカラサル処ナル事實ニ前提シ支那ノ朝野カ日本ニ対シ懷ケル obsession カ笑フヘキ荒唐無稽ナル想像ニ基ケルモノニシテ日本亦支那トノ善隣ノ誼ニヨリテノミ成長スヘキ平和的宿命ヲ負ヘル國民ナルヲ以テ日本ノ合法的要求ハ支那ニ於テ努メテ之ヲ満足セシメテ東洋ニ於ケル事端ノ發生ヲ防止セムコト英國ノ希望スル処ナルヲ述ヘタルニ支那側ヨリ最近喧伝セル日英同盟説ニ言及シ種々質問シタルニ付自分ハ英國外相ノ議会ニ於ケル答弁カ最近ノ日英ノ親近ノ実状ヲ最モ良ク説明セルモノニシテ他ニ何等ノ隱蔽スヘキ秘密モナキコトヲ答ヘ更ニ笑ニ紛ラシテ唯将来支那ノ対日対英態度ニ基ク東洋ノ形勢如何ニ依リテハ又現状以上ノ意味カ加ハルコトナルヤモ知レスト付ケ加ヘ置キタリ語レリ

（欄外記入）日支關係ニ關スル英國公使ノ支那側ヘノ申入